



平成29年 1 月号

社会福祉法人翠浩会
障害者支援施設

新 光 苑

<http://www.shinkoen.net/>
〒360-0832 熊谷市小島527番地
TEL. 048-532-0665



「謹んで新年のご祝詞を申し上げます」

今年の正月は稀にみる麗らかな天候に恵まれ、素晴らしい新年を迎えられた事と存じ上げます。

1月4日の東京証券取引所の「大発会」では日経平均株価が479円高と幸先よい幕開けとなり、相場格言にある「申酉跳ねる」に大いに期待しているようですが、果たしてどうでしょうか。

アメリカのトランプ大統領の誕生によって、世界情勢は全く予測のつかない状況になっていきます。歴史を振り返ってみると、このように偶然と思われる事が、実は必然であった事が見受けられます。今後について軽々と論ずる事は出来ませんが、まさに世界は変革の時期に入ったのではないのでしょうか。

私も18才から実業界に入り、(株)西田商事の社長を兼ねていますが、世の中の流れは約30年周期で変化して来たように思います。商売とはその時代の感覚を売る訳ですから、常に時代の変化に敏感に反応してゆく中に存続は許されます。私も何とかこの周期ごとに転換して、今日まで生き延び、本年度創業104年を迎える事が出来ました。

以前発表された企業の寿命では全国130万社の中で200年企業はわずか200社、いかに継続してゆく事が難しい事が分かります。

1月11日の新聞に「介護事業者倒産、昨年度最

多の108件」の見出しで、介護事業者の倒産が過去最多であると伝えていきます。内訳を見ますと、従業員5人未満の小規模事業者が29件と全体の7割、新規参入5年以内が54件と半数、負債10億円以上の大型倒産も、特別養護老人ホームと有料老人ホームで各1件とありました。

社会福祉事業は、行政の手厚い支援の元で運営されていると思われていますが、実は完全な競争社会に入っているように思えます。

障害者福祉においても「障害者自立支援法」施行後は「施設より地域へ」の推進により、各地に小規模な施設が作られ、利用者の取り合いの感も受けています。

措置制度下に整備された私達の施設は、入所利用者は全て行政責任で紹介して貰える訳でしたが、いつしか契約となり、加えて「三障害一元化」とつぎつぎと制度は変わってきました。その都度、最大限の運営努力はしてきましたが、どうにも解決出来ないのが施設立地です。

以前は施設建設には厳しい規制が設けられ、半径300m以内の住人が1人でも反対すれば認可されず、狂乱地価でしたから、交通の至便なところには出来ませんでした。

幸いにも新光苑は地域の方々の理解と利用者の保護者の熱意と協力によって、現在地に出来ました。

ご承知の通りの厳しい求人難の中ですが、このまま進めば早晚入所利用者数の削減、それ以上の事も覚悟しなければならぬ程深刻です。万難を排しても職員の確保が至上命令です。

全職員一丸となって業務を見直して、効率のよい職場を作り上げることに尽きます。

今年のスローガンは「困難は成長へのチャンス!! 頑張ろう」

29年度の決意

副苑長 横川与志子



皆様今年もどうぞ宜しくお願い致します。平成元年に開苑した新光苑は来年度で29年目を迎えます。その間障害者福祉の環境は大きく変化しましたが、特に来年度は社会福祉法人制度改革が実施されます。経営組織のガバナンス強化・事業運営の透明性の向上・財務規律の強化等、これまでの新光苑にとっては当たり前の事が、制度として義務付けられます。但し役員体制の刷新や、地域における公益的な取り組み実施の責務など、変革を迫られる内容もありますので、しっかりと対応致します。

また、管理棟・入所1号棟・2号棟は、これまで随時メンテナンスを実施していますが、大規模修繕が必要な時期にきています。特に屋根天井の水漏れや水道配管は、放置する事により老朽化が加速してしまいます。新光苑では中期的に計画を策定し、快適な生活や福祉サービスの妨げにならないよう、工事を進める予定です。

更に、現在の新光苑が直面している課題は、利用者様の高齢化・重度化に伴う医療ケアその他の支援負担増加です。少子高齢化により一般企業でも人手不足が深刻化していますが、これまで以上の職員確保が必要です。入所者や短期入所・児童デイサービスのご利用を制限してもなお、深刻な職員不足が続いています。新卒正規職員だけでなく、パート職員や中途採用を積極的にを行い、より良いサービスを提供できるよう努めます。

新年会

小川智美



1月9日、恒例の新年会がホール棟にて開催されました。新年の集いとあって参加者も多く広いホール棟もいっぱいになりました。
午前11時、理事長の挨拶で開会、続いて苑長より今年の苑の運営方針と新光苑の現況についての説明、平川保護者会副会長、舟橋監事の挨拶を頂きました。次に埼玉県社会福祉大会々長表彰で西田理事長、嶋田理事に西田苑長より表彰状と記念品が贈呈され、嶋田理事より20年表彰に対する謝辞と新光苑の歴史についてのお褒めの言葉を頂きました。

次に舞台には江村部長を中心に全職員が整列して、江村部長より今年度の勤務に対しての決意と各担当課長より抱負が述べられました。全員で今年度のスローガン「明るく元気〃笑顔溢れる新光苑」を斉唱して降壇しました。

舞台は一変して、新春恒例の「初舞い」御山流家元 御山美和先生の日本舞踊。曲目は「春秋の舞」金屏風の前で舞う先生の流麗な姿に会場はうっとり。心ゆくまで初春の喜びを味わいました。年男・年女の3名の乾杯の音頭で祝宴に入り、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、歓談に入りました。舞台では「獅子道」廣原武美さんの津軽三味線の演奏が始まり、力強い音色が会場に響き渡りました。続いて「上尾チンドン倶楽部」のチンドンヤショーでは、賑やかに会場を練り歩き、利用者は初めて見るチンドン屋に目を丸くして聞き入っていました。余興の余韻を残しつつ、副苑長の挨拶で閉会となりました。



平成29年職員スローガン
「明るく元気！」
笑顔あふれる新光苑」
 サービス部部长 **江村 玲**



今日日本では、福祉に限らずこの会社でも人材不足という深刻な問題を抱えています。新光苑も例外ではなく、職員の確保に苦労しており、今年の採用職員は9人で、予定していた人数には足りていない状況です。これからは、限られた職員でどう対応していくかを考えなければいけない時代と言えます。新光苑は、近年高卒の新職員を積極的に採用し、大卒や専門卒、経験豊富な先輩職員も増え、知識や能力が様々な職員が集まった職場となりました。人数的に足りない分は、職員一人一人が知恵を出し合って考えることも、職員の能力ややる気をあげて乗り切っていくことが求められています。そのため、今年の職員スローガンを「明るく元気、笑顔あふれる新光苑」としました。職員が明るく元気に仕事に取り組むことで、新光苑が笑顔のあふれる施設になると信じています。職員が一生懸命能力を発揮できる環境作りを行い、利用者とともに生きる施設を目指して今年一年間を取り組んでいきたいと考えています。

それでは、各部署の抱負を述べていきます。最初に、入所支援課は平成元年に開所し、これまでは日常生活支援を中心に提供してきましたが、利用者様の高齢化、重度化に伴い「命」そのものに向き合った支援が必要となってきています。利用者の変化に迅速に気づき、専門職が連携を取って、職員として何をすべきか、どう向き合っていくかを考えていきます。

次に、生活介護・短期入所課は、利用人数も増え様々な方に利用していただいています。昨年の日中活動では、季節に応じたイベントを多数企画し大変好評をいただきました。今年も新しいイベントやレクリエーションを提供

し楽しく過ごせるよう頑張ります。短期入所は、自宅を過ごすのと同じ安心した生活が提供できるように、安全環境の確保に努めていきます。

最後に、放課後デイ、相談支援は開所してから丸2年が経ち、しっかりと軌道に乗ってきました。放課後デイについては、熊谷地区には少ない重度心身障害児の受け入れ先として需要が多く、設備が整っている・日中の療育も工夫がされ魅力がある、など好評を頂いており、利用希望児童は増え続ける状況です。今後も、こうした評価を維持できるように、児童の安全を第一に考え、魅力ある活動を続けていきます。

クリスマス会
船井愛菜

12月23日、新光苑ホール棟を会場として、利用者、保護者等250余名の参加で盛大に開催されました。

年内最後のイベントとあって、参加者は期待に胸をふくらませて、開会を待ちました。

11時、苑長の挨拶で開始、毎年恒例の一年目職員の余興に代わり、男性職員数名による「ものまねクイズショー」が行われ、どじょう掬いや、話題のアーティスト等、演技力いっぱい披露され、会場は笑いで溢れました。

「乾杯」の音頭で食事になると、テーブルに並べられたご馳走に目を輝かせ、楽しい会話の中、会場はクリスマス・ムードに包まれました。

舞台では、ピアノ、ボーカルユニット「ゆか&はるな」とジャズ演奏で、クリスマスソングが会場一杯に流れ、手拍子をたたいたり、口ずさんだり、舞台と会場が一体となり、大いに盛り上がりしました。

そんな中、今年は鴻巣ゆるキャラ「ひなちゃん」の登場です。テーブルを廻り、利用者一人一人にプレゼントを配りました。思い掛けない

「ひなちゃん」の登場に利用者はビックリ。満面笑みを浮かべて、プレゼントを受け取りました。興奮さめやらぬ中、副苑長の挨拶で閉会となりました。





文化祭 森野の香

11月23日に文化祭が行われました。利用者の素晴らしい作品がたくさん並び、保護者の方も熱心に見学されました。思い出の写真をスライドショーで上映したり、各課の紹介ポスターの展示を行いました。余興として落語を聞きながら手作りおやつのお茶巾絞りとおんみつを食べ、楽しい時間を過ごせたと好評でした。

表彰式では、最優秀賞に馬場利用者、苑長賞に矢島利用者、実行委員特別賞に吉田優子・黒澤・真保英治・塩田・小沢利用者が選ばれました。参加された皆様、素晴らしい作品をありがとうございました。

職員忘年会 島村友彰

12月15日午後7時半より、職員忘年会が近くの「みかわ」熊谷本店で行われました。

初めに西田苑長が挨拶に立ち、「本席このように大勢の職員の出席の下、忘年会が盛大に開催出来る事は、職員の皆様が1年間精勤された結果で、心より感謝申し上げます。」との言葉に続いて、来年度に向けての抱負を述べました。

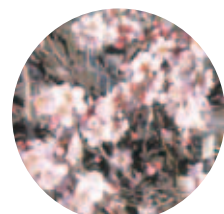
続いて理事長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。料理はコース料理で、次々と出て来るおいしい品々を皆満足そうに頂いていました。

余興では2年目の職員が星野源の「恋ダンス」を踊って喝采を受けました。お待ち兼ねの「ピング大会」では副苑長考案の豪華景品がズラリ。リーチの度に大きな歓声が上がりました。副苑長の閉会の辞のあと、江村部長を中心に男性が並び、「熊谷締め」で閉会となりました。



寒入り後は毎日激しい寒さが続きますが利用者、職員とも風邪引きもなく元気に過ごしています。これも全員が健康に注意している結果ではないかと感謝しています。

新光苑の入口にある早咲きの梅は、今年も数輪の花を付けましたが、只今は写真のように満開です。ご来苑の節はぜひご覧下さい。



特別寄附金

一金 壱阡萬円 故 矢島てる様

開苑当初から、28年以上入所されている矢島恵子利用者のお母様が、一昨年亡くなられました。ご遺言により、これまでの御礼と今後の新光苑のために、ご寄附を頂きました。心より感謝申し上げます。

編集後記

「冬来たりなば 春遠からじ」と誰しもが春を心待ちにしていますが、庭の露の臺も顔を出し、確実に春の訪れを伝えていきます。寒さに負けずに、頑張りましょう。